

吹奏楽部OBの皆様いかにお過ごしでしょうか。今春、突然に無理な要請にも関わらず、多くのOBのご協力を頂き、誠にありがとうございました。

おかげをまちまして、OB会・保護者会と連携しまして、八幡高校吹奏楽部後援会として、学校の承認も得まして、無事発足いたしました。今後は夏の定演・春のコンサートに合わせて、ご案内かたがた、年に2度の会報発行を目指していきたいと考えておりますので、ご協力の程よろしく願いいたします。

また、現在OB会名簿の方も、かなりの不明者が生じている状態ですので、秋口より徐々に充実をはかっていきたいと思っておりますので、その時はご面倒ですが協力願います。

そして誠に言い難いことではありますが、後援会費・誠鏡会会費協力の件、お願いいたします。オイオイこないだ来たばっかやんと、お嘆きの諸兄も多いとは思いますが、誠鏡会への償還金は13年度より始まっており、今後は定演時の会報に合わせて振込用紙等同封しますので、宜しくお願いします。

保護者会の方々には、吹奏楽部基金として3000円/年の会費をお願いしております。

堅い話はこんぐらいにしとしまして、今年の吹奏楽部の近況をお知らせしときます。3年12人(女9:男3)、2年17人(女13:男4)、1年18人(女15:男3)。フルート5、クラリネット8、オーボエ1、サクソ6、トランペット6、ホルン4、トロンボーン3、ユーフォ2、チューバ2、コントラバス3、パーカッション7の47人でスタートしてます。ちなみに、今年のリボンの色は3年青、2年赤、1年緑です。例年通り大半は初めて楽器を手にする生徒で、特に今年は楽器経験者がFluteとSaxだけに集中したため、なおさら初心者が多い構成となっております。そして、顧問の先生にOBの池田先生(第7代部長:高35期)を迎え、新たなスタートをきってます。

コンクールは銀賞と残念な結果に終わりましたが、特に今年の3年生はパーリー全員がフルスコアを持ち、楽曲研究や和音分析を行う等、コンクール3週間前の12日間に及ぶ試験休みのためのクラブ完全禁止や、1週間前まで災天下での野球の応援などの悪条件の中、今後につながる土台づくりをしてくれました。。この頑張りだけは、どこの学校にも負けてないと言えます。だから、なおさら最後の定演をできるだけ多くの人に聴いて欲しいので、OBのみなさんも、どうか金曜の夜は八幡市民会館にお集まり下さい。

---

### 今年度部長あいさつ 2年 松尾 優加(Picc&Fl)

私はこの度、第26代の部長を引き受けることとなり、諸先輩方の後続くことができるように、重責を感じながら一生懸命頑張っております。今年度は誠鏡会の御尽力により楽器を新しく購入していただき、たいへん嬉しく思っております。また、新しい顧問の先生とトレーナーを迎え、心機一転日々練習に励んでいます。

1年生は初めのうちは戸惑いながらも、上級生の指導のもとに音を出すことから始め、4ヶ月たった今は楽器を演奏することの楽しさを感じているようです。2年生は、それぞれ自分の役割を理解し、下級生の面倒を見ながら、さらに自分の技術を磨く努力をしています。3年生は3年間の部活動の集大成に向けて、邁進しています。また、受験勉強と両立しながら、まだまだ未熟な私たちを引っ張って下さっています。

このようにコンクールを目指し努力を重ねることもさることながら、音楽のすばらしさや楽しさを、みなさんに伝えられるような演奏ができることが一番の願いでもあります。

今後とも吹奏楽部にますますの御支援、御指導を賜りますようお願い申し上げます。

部長について・・・

たま～に、ユカちゃんと呼ばれ、普段はまっちゃんと呼ばれるキャラクターでみんなを(見かけによらず弱い体で)頑張って引っ張ってます。こんな真面目な挨拶文を書いて、きっとみんなに笑われ後悔することでしょう。そんな人です。

OB担当係はTubaの2年生・佐藤麻美と渡辺陽奈、通称おっちーとゴンです。定演で差し入れする人がいないOBは2人にお菓子を！

---

## 八高吹奏楽部誕生物語

そもそも吹奏楽部はサッカー部のテレビのおかげでできたのでした。時は1972年、季節は秋、サッカー部が県会の決勝戦に進出、相手は福岡商業。唯これだけでしたら、何も起こらないわけですが。この試合がテレビで中継されることになったのでした。これをきっかけに当時の3年生（高25期）が中心となり、バンドを作って応援に行こうとなったのでした。すぐに、40名程でバンドが結成され、楽器は槻田・大蔵中を主に、区内の中学校から借り集め、いざ平和台競技場へと乗り込んだのでありました。福商の吹奏楽部は人数も多く、楽器も眩いばかりに輝いておりました。かたや八高は数も寂しく、楽器も土色に沈んでおりました。案の定、後日ビデオを見たところ、何回も画面に映る福商プラスに対し、八高はついに1回も画面に映ることなく、試合は終了してしまいました。（準優勝）しかし、裏の目的は達成されたのでありました。それは学校に、。八高には立派に1つのバンドを作れる人材が揃っていることをアピールすることでした。こうして、吹奏楽部への第一歩が始まりました。

その後、水面下で着々と吹奏楽部への道が開けつつありました。そして3年目の1974年、定岡君（現、東海大附属相模高等学校吹奏楽部顧問）が中心となり、6月頃に学校が認めてくれそうと言う段階まで来ましたが、実現せずに終わりました。でも、このチャンスを逃してはならぬと、体育大会の時に再びバンドを結成して、入場行進を演奏することで今度は先生方全員に実力をアピールしようと言う事となりました。

その時です。事件が起こりました。体育大会の予行演習の日、我々は教室に残って楽器を借りるための借用書を書いておりました。もちろんプログラムは頭に入れておりました。フォークダンスを逃すわけにはいきません。しかし、貴お超えるはずのない時間に、聞こえるはずのないメロディーが流れて参りました。まぎれもなくフォークダンスのメロディーです。我々は走りました。グラウンドへ、全力疾走で。茫然と立ちつくすのみでした。

こうして、我々の人生の中で、本当に貴重で何ものにも換え難い青春の犠牲の上に、翌年吹奏楽部は同好会として発足したのでありました。

今回は初めての会報と言うこともあり、吹奏楽部設立当時のエピソードを載せましたが、次回からはOB担当係が中心となり、若々しい紙面でお送りしたいと思っております。ちなみに、今年の誠鏡会総会は、高25期の先輩が当番幹事です。総会にも来て下さい。

---

## 広報係からのお願い

後援会発足に伴い、吹奏楽部の歴史も残していこうと、パソコン人間、なかにゃん（2年 Euph、このページの管理人です）も燃えておりますが、第8回と第10回、第13回～第16回を除く、第2～4、11、12回、定演のパンフレットやポスターが部内にありません。そこでお願いですが、手元に持っている方がおられましたら、複数部お持ちでしたら寄贈を、そうでなければ、コピーだけでも願いますので、ご協力下さい。

---

文責：片倉 嗣朗（高27期）